

全国心臓病の子どもを守る会 第63回全国大会へのメッセージ

全国心臓病の子供を守る会第63回全国大会のご開催を、心よりお慶び申し上げます。また、日頃から心臓病の子どもたちの命を守る施策の実現に取り組み、医療・教育・福祉の向上をめざす貴会のご活動に対して、心より敬意を表します。

昨今、物価高騰が続き、生活や医療に不安を抱える方が増えています。特に医療費の負担は、難病・疾病のある方々にとって極めて深刻な問題です。こうした中、先の通常国会では、立憲民主党が当事者の方々とともに訴えたことにより、高額療養費自己負担限度額の引き上げの凍結が実現しました。今行われている高額療養費制度の再検討のプロセスにおいても、立憲民主党は当事者の方々の意見がしっかりと反映されているか、制度利用者における生活実態調査が適切に行われているか等を厳しく注視し、限度額の引き上げが行われないよう、強く政府へ求めてまいります。

また、2022年に成立した改正障害者総合支援法は、難病患者に対する適切な医療の充実など評価できる点もあり、立憲民主党は付帯決議を付した上で賛成しましたが、成人後も切れ目がない治療が可能となるよう、小児慢性特定疾患を指定難病に指定する検討を進めるなど、残された課題に取り組みます。また、職場や学校での介護、通勤・通学の移動中の介護を重度訪問介護の対象とする「重度障がい者就労就学支援法案」の制定をあらためて追求してまいります。

さらに立憲民主党は、必要な全ての方に医療が提供できるよう、これまででも病床や医療従事者の確保を求めてきました。また、子どもたちが不安なく保育園や幼稚園、学校に通うことができ、オンライン授業など学ぶ権利を保障するための環境整備も重要です。とりわけ、医療的ケア児の保育や学校教育等を受ける権利を保障するためには、看護師や介護福祉士等の配置に向けた環境整備や通学支援など、希望する学校等に通学しやすい環境をつくるなければなりません。

私たちは、社会保障を必要とする方々の思いが真に反映される社会保障制度を構築し、心臓病をもつ子どもたち及びご家族の方々が安心して暮らせる社会にするため、皆様と一緒に力を尽くして参りたいと存じます。

最後になりますが、全国心臓病の子供を守る会の更なるご活躍と、皆様の益々のご健勝を心よりお願い申し上げ、大会メッセージとさせて頂きます。



2025年10月26日

立憲民主党代表 野田 佳彦

メッセージ

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会 第63回全国大会の開催、誠におめでとうございます。

大澤会長をはじめ、ご参会の皆様、またオンラインでご参加の皆様の日頃からのご尽力に深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

本日の大会は、「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」とのテーマのもと、障害者の自立とご家族の支援を実践してきた講師の方によるご講演や体験発表など、大変に重要な機会であると伺っております。すべての心臓病者の生活における課題の検証から、改善に向けた貴会の今後の活動に繋げられていくとの目的が達成されるよう、願ってやみません。

結党以来、「福祉」を柱に取り組んできた私ども公明党も、その一助となるべく、貴会の皆様方とも手を携えながら、誠心誠意、働いてまいります。

末筆ながら、本大会のご盛会と貴会の今後ますますのご発展、会員の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、お祝いのメッセージとさせていただきます。

2025年10月26日

公明党代表 斎藤鉄夫

第 63 回全国心臓病の子供を守る会全国大会へのメッセージ

第 63 回全国心臓病の子供を守る会全国大会の開催おめでとうございます。

1963 年の設立以来、一貫して心臓病児者とその家族の声に耳を傾け、寄り添いあいながら、医療・障害・難病施策などの改善・拡充を求めてこられた活動に、心からの敬意を表します。

貴会が 5 年ごとにおこなっている最新の生活実態アンケート調査では、幼少期からの、それぞれのライフステージで起きている問題や課題が明らかにされています。

小児の心臓病手術ができる病院が減らされており、通院の宿泊費や交通費がかさむ、地域間格差のある重度心身障害者医療費助成制度など、生涯にわたって必要な医療の体制や負担の軽減は不十分です。就学では、主治医が「制限なし」と言っていても、学校から親の付き添いを求められたり、知的障害や発達障害があっても心臓疾患があるからと特別支援学校の入学を断られてしまうケースがあります。

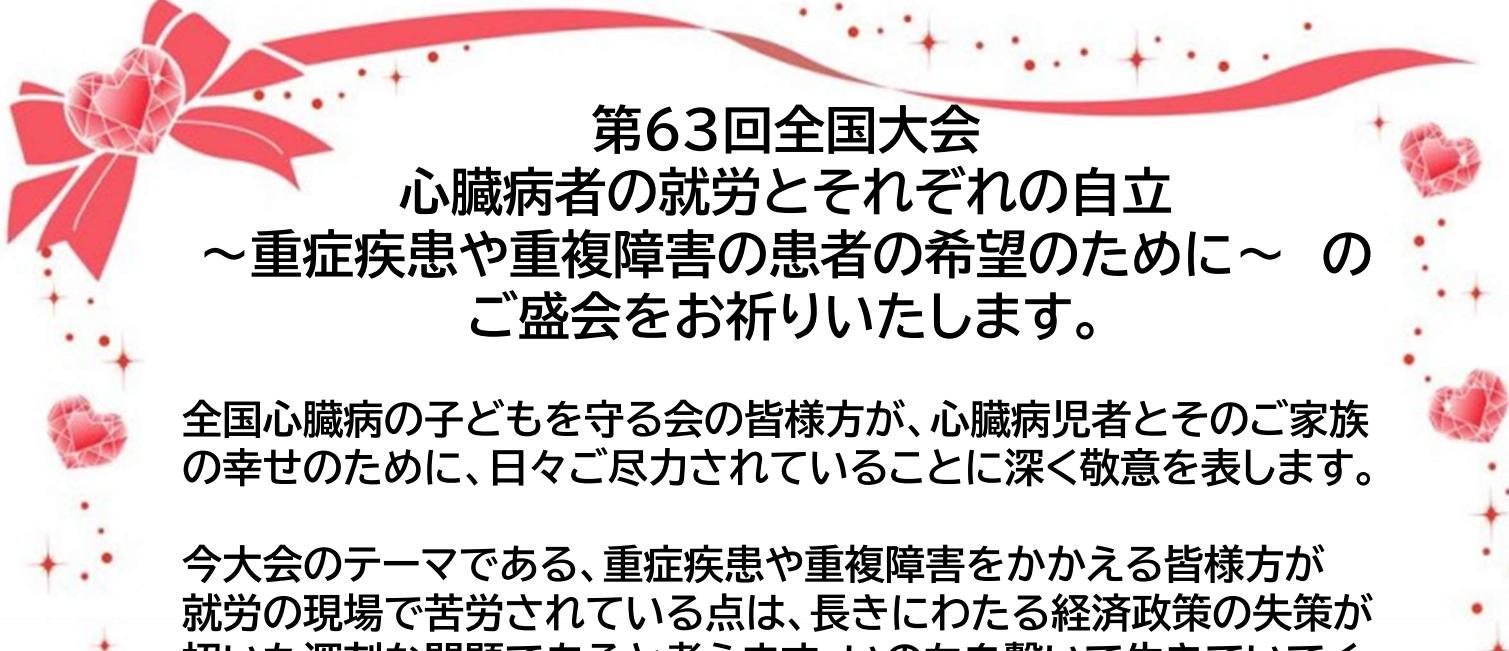
就労していても 4 割の方が年収 200 万円未満であり、フルタイムの正規雇用は 5 割にとどまっています。障害年金は 3 割の方しか受給しておらず、最初から障害年金の申請をあきらめている方が 4 割もいます。障害施策を医療モデルから社会・人権モデルに転換していくことは、心臓病患者にとっても切実な課題であることが、アンケートで浮き彫りになっています。

今回の大会で焦点が当てられる、重症疾患や重複障害がある患者さんたちも、希望をもって生きることができ、すべてのご家族が安心できるように、教育・学びの保障や、就労・雇用の合理的配慮をすすめ、社会保障制度の改悪を許さず前進させるため、ご一緒に力をあわせてていきましょう。

政治のもっとも大きな役割は、命を守ることです。日本共産党は、どんな政権のもとでも、戦争、差別、排除などのない平和な社会のもとで、誰もが生まれながらに持っている人権が尊重され、それぞれの命を輝かすことができるよう、全力をつくす決意です。

大会の成功とみなさんの健康、今後の活躍を祈念して、メッセージといたします。

日本共産党幹部会委員長 衆議院議員 田村智子



第63回全国大会 心臓病者の就労とそれぞれの自立 ～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～ の ご盛会をお祈りいたします。

全国心臓病の子どもを守る会の皆様方が、心臓病児者とそのご家族の幸せのために、日々ご尽力されていることに深く敬意を表します。

今大会のテーマである、重症疾患や重複障害をかかえる皆様方が就労の現場で苦労されている点は、長きにわたる経済政策の失策が招いた深刻な問題であると考えます。いのちを繋いで生きていくださったのに、その後の生活に絶望を感じるなど、あってはならないことです。

れいわ新選組では、どんな障害があっても明日の生活を心配せず、胸を張って人生を歩める社会、障害があることを障害としない社会を目指し、障害者雇用を充足させるためのあらゆる基本政策を掲げております。

私 やはた愛は、厚生労働委員会にも所属しておりますので、皆様方の希望へと繋げるよう、国会を諦めず、引き続き全力で訴え続けてまいります！

最後に、ご臨席の皆様方の更なるご活躍並びにご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、私からの激励と連帯のメッセージといたします。



れいわ新選組
衆議院議員・厚生労働委員会所属
やはた愛

衆議院議員
やはた愛
れいわ新選組。大阪府第13区 東大阪市

全国心臓病の子どもを守る会 第63回全国大会に寄せて

令和7年10月26日

此度、「全国心臓病の子どもを守る会 第63回全国大会」が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

貴会は、昭和38年発足の長い歴史を持つ団体です。心臓病に関する医療は、この長い年月で、目覚ましい進歩を遂げました。一方、心臓病を発症した子どもやご家族は、社会生活の中で様々な不安を抱えておられることと思います。そうした中で、全国に支部を持ち経験豊かな貴会が、子どもとご家族に寄り添い、その拠り所となっていることに深く感謝するとともに、講演会や交流会をはじめとする多様な活動を行っておられることに、心から敬意を表する次第です。

最後になりますが、心臓病の子ども、ご家族、関係者の皆様が想いを共有され、未来への歩みとなりますよう心より願い、また、ご参集の皆様のご健勝を祈念し、祝辞とさせて頂きます。

衆議院議員

吉田真次

第63回全国大会の開催を心からお祝い申し上げます。長年にわたり、心臓病を抱える子どもとその家族の声を国政に届け、医療・福祉制度の改善に尽力されてきた御努力に深い敬意を表します。小児から成人まで切れ目なく支える移行医療体制の拡充、医療費負担軽減、就労支援や教育環境整備といった多様な課題に、政府・関係機関とともに真摯に取り組む所存です。皆様の思いと願いが形になるよう、一層の努力を重ねてまいります。どうか今後とも変わらぬご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

衆議院議員（看護師・助産師）
酒井なつみ（立憲民主党東京15区選出）

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会

会長 大澤 麻美 様

第63回全国大会のご開催、誠におめでとうございます。

心よりお慶び申し上げます。

日々、懸命に病と向き合っていらっしゃる皆様、その生活を長年支えてこられたご家族の皆様に心からお見舞い申し上げます。

そして、患者さんとそのご家族の不安に寄り添い、共に考え、支え合う社会を目指す、全国心臓病の子どもを守る会の皆さんに深い敬意を表します。

誰もが安心して暮らせる未来のためには、制度の壁を越えた連携と、当事者の声に耳を傾ける姿勢が不可欠です。

孤立ではなく、つながりを。 不安ではなく、希望を。

この大会が、そんな未来への一歩となることを願っています。

衆議院議員
そうの 創

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会
会長 大澤 麻美 殿

第 63 回全国大会メッセージ

第 63 回全国大会「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」のご盛会を心よりお祝い申し上げます。

全国心臓病の子どもを守る会の皆さまにおかれましては、心臓病児者の方々が安心して暮らせる社会づくりに向けて、日々ご尽力いただき心から敬意を表します。

私、森ようすけは、貴会が目指す生活・政策の実現をはじめ皆さまのご要望にお応えするべく、全力で取り組んでまいりますので、今後ともご意見ご指導を賜りますようお願いいたします。

本大会が活発な議論のもと、実り多い成果を上げられ、一層の団結と前進を図る場となりますことをお祈りいたします。

結びに貴会のさらなるご発展とご臨席の皆様方のますますのご活躍とご健勝を心よりご祈念して、森ようすけからのメッセージとさせていただきます。

2025 年 10 月 28 日
衆議院議員 森ようすけ

全国心臓病の子どもを守る会 会長 大澤麻美 様

「第六十三回全国大会」のご開催まことにおめでとうございます。

医療の進歩で、治療と仕事の両立支援の必要性が高まっています。今年の通常国会における労働施策総合推進法の改正において、治療と就業の両立のための努力が事業主に課されました。県の産業保健総合支援センターにおける両立支援はまだまだ不十分です。両立支援促進員の正規化も含め、引き続き、精一杯取り組んでまいりますので、なにとぞご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

令和七年十月吉日

立憲民主党 衆議院議員

神奈川県第四区(鎌倉・逗子・葉山・横浜市栄区)



早稲田 ゆき

祝

第63回全国大会の開催、誠におめでとうございます。日頃より、子どもたちの命と健やかな成長を願い、医療の充実や社会的理解の促進に尽力されている皆様の献身的なご活動に、心から敬意を表します。

先天性心疾患や重い心臓病を抱える子どもたちとそのご家族にとつては、医療面での支援のみならず、心理的・社会的なサポートも不可欠です。公的支援体制のさらなる強化、医療機関間の緊密な連携、そして長期にわたるフォローアップ体制の充実は、国としても最重点で取り組むべき課題であると考えます。

特に、貴会が実施されているアンケート調査により、就労をはじめ経済的自立が依然として大きな課題であることが改めて示されました。それぞれの状況に的確に対応した支援を通じて、子どもたちもその子どもが大人になった後も、それぞれの形で社会と関わりながら安心して暮らせる環境を整備することは、福祉国家としての責務であり、私も国会の場でその実現に全力を尽くしてまいります。

最後に、本大会を契機として、次世代を担うすべての子どもたちが安心して未来を描ける社会の構築に向け、貴会のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和七年十月吉日

衆議院議員
大西健介



『一般社団法人全国心臓病の

子どもを守る会第六十三回全国大会』のご開催を心よりお慶び申し上げます。また、心臓病とともに生きるお子様、そのご家族の皆様の暮らしをよりよいものにするため、日々ご尽力賜るご関係の皆様に心より敬意を表します。

今大会のテーマは「心臓病者の就労とそれぞの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」ということで、一般就労や障害者雇用で働くことが困難な心臓病者の皆様が安心して働く、生活できる環境や基盤づくりが私どもに求められていることだと認識しております、努力してまいる所存です。

心臓病の子どもたちと共に歩む貴会の今後ますますのご発展と、本日ご参会皆様のご健勝ご多幸を祈念いたします。

令和七年 十月 二十六日

衆議院議員 大塚さゆり



一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会

第63回全国大会にご参加の皆様、そして日々ご尽力されている関係者の皆様へ

衆議院議員 長谷川嘉一です。

第63回全国大会の開催、心よりお慶び申し上げます。

私は政治家として、心臓病を持つ子どもたちとそのご家族が直面している、見えない苦しみや、言葉にできない不安を肌で感じてまいりました。医療費、教育、そして何より、社会から理解されない孤独感。これらは、単なる個人の問題ではなく、社会全体で解決すべき課題です。

私も一人の人間として、大切な人を支える方々の懸命な姿に触れるたびに、胸が締め付けられる思いがいたします。その一方で、病気に立ち向かう子どもたちの明るい笑顔、そしてそれを支えるご家族の強さに、いつも大きな勇気をいただいています。

皆様がこの大会で分かち合う一つひとつの経験、そして交わされる温かい言葉は、同じ境遇にある人々の支えとなり、希望の光となります。そして、それは必ず、私たち政治を預かる者への力強いメッセージとして届きます。

私、長谷川嘉一は「誰もが安心して暮らせる社会」を目指し、医療・福祉制度の充実、難病指定の拡大、そして子どもたちが夢を諦めずに学べる環境整備に、これからも全力で取り組んでまいります。

心臓病を持つ子どもたちが、心臓病を持たない子どもたちと、何の隔たりもなく、同じ夢を見られる社会を。

その実現に向けて、皆様と共に歩んでいくことを、改めてお誓い申し上げます。

本日の大会が実り多きものとなりますよう、心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

令和7年9月24日

衆議院議員 長谷川嘉一

第 63 回全国心臓病の子どもを守る会全国大会へのメッセージ

第 63 回全国心臓病の子どもを守る会全国大会の開催おめでとうございます。

心臓病児者とその家族が、1 人で悩み・抱え込まなくともいいように、みなさんが力をあわせて支え合い、励まし合いながら、心臓病であっても物質的・精神的に充実した日々を送り豊かな生活がおくれるよう、医療制度など社会保障の改善・拡充のために活動してこられた皆さんに敬意を表します。

今回の大会のテーマは「心臓病者の就労とそれぞの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」とお聞きしました。心臓病者が稼働年齢に達して社会の中で職を得て働き十分な賃金を得られるようにすることが必要です。憲法 27 条が勤労の権利を保障しているようにこれは基本的人権として保障されていることです。

しかし残念ながら病気や障害を抱えて就職し、仕事を続けることは大変困難なのが実態です。背景には長時間過密労働を容認する労働法制の下で、日本の労働者は世界で最も長く働いており、それにあわせられない人が排除される社会だということがあります。

また、心臓病者の就労には合理的配慮が不可欠ですが、多くの職場では難しいのが現実です。企業の合理的配慮を企業だけの自己責任まかせず社会で支える仕組みが必要ですが、残念ながら非常に不十分なことも言わざるをえません。

心臓病者の生活を本人や家族の自己責任にまかせている社会の仕組みを転換し、だれもが人間らしく働く社会を作っていくかなくてなりません。労働法制の強化、障害者雇用の拡大、障害年金の拡充などの社会保障の充実が必要です。私たちもみなさんと力をあわせて、そのために全力をあげる決意です。

大会の成功とみなさんの健康、今後の活躍を祈念してメッセージといたします。

日本共産党 衆議院議員 田村貴昭

救急医となる研鑽を積むために、N I C UやI C Uで勤務し、心臓病の患児の治療にあたりました。
小さな体の中にある大きな命と可能性に全力で向き合ってまいりました。
今は政治という舞台で、命を守った子どもたちの、その後の生活を守る仕事をさせていただることに身が引き締まる
思いです。
皆様と共に全力を尽くさせていただきます。

衆議院議員
福田 徹

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会「第63回全国大会」の開催にあたり、長年にわたって心臓病を抱える子どもたちとご家族に寄り添い、支援を続けてこられた皆さんに、心より敬意を表します。

心臓病を抱えながらも、日々懸命に生活をされている皆さまが安心して働き続けられる社会を実現できるよう、また「患者の親の介護問題」や「親なきあとの生活」など、家族の支えが途切れたときにも安心して暮らせる社会の仕組みづくりのために、行政・医療・地域が一体となって課題解決に向け取り組んで参りたいと存じます。

この大会が、患者やご家族、そして支援に関わるすべての方々にとって、希望と安心につながる実りある機会となりますことを、心よりお祈り申し上げます。

令和7年10月26日

国民民主党 参議院議員 かごしま彰宏

祝

全国心臓病の子どもを守る会・第 63 回全国大会のご開催、誠におめでとうございます。

「心臓病だけど働きたい！」という皆さんのがしっかり反映される環境が整うよう、一歩ずつ国でできることを私も国会の中から声を上げて参ります。

わたしらしい「くらしと仕事」、共に創りましょう。

これから日本では、それぞれの方の体調や事情や個性に合わせて、多様な働き方ができる社会になっていくことが必要だと思います。皆さんのお声を、これからもお聞かせください。

本日のご盛会を心より祈念申し上げます。



2025年10月26日

立憲民主党

参議院議員

高木真理

(埼玉県選挙区)

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会第63回全国大会メッセージ

全国心臓病の子どもを守る会第63回全国大会が「ともに創る“わたしらしい”くらしと仕事」を掲げ、テーマとして「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために」会場での対面形式とオンラインの併用で開催されますことに、医療従事者の一人として、また参議院議員として敬意を込めてお祝いを申し上げます。

先天性疾患をはじめとする心臓の病気は、子どもたち本人とその家族にとって極めて大きな負担となります。特に、患者さんが就労を望んでも様々な背景・要因によって思うような機会を得られず、結果として経済的な自立が困難となり、家族や関係者にとっての大きな不安につながります。

心臓疾患とともに多重の障害を持つ子どもたちの場合は、更に解決すべき課題が多岐にわたるでしょう。大会が課題の整理と改善に向けた一歩を踏み出し、様々な支援が行われる契機となることを期待しています。

貴会の活動の理念でもある「手をつなぎ支え合う」と言う多くの関係者の思いが、未来に向けてしっかりと実を結ぶよう、微力ながら応援をしてまいります。

参議院議員 星 北斗

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会第63回全国大会にご参集の皆様、長きに渡り心臓病の子どもたちとご家族の不安や困難に寄り添いながら、社会の理解を広げてこられたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

参議院議員で看護師の石田昌宏です。

医療の進歩によって多くの方が成人期を迎えられるようになった今こそ、「働くこと」「自立すること」に向き合う支援のあり方が問われています。

どのような病や障害があっても、自分らしい役割を持ち、社会の一員として生きることができます、その希望を次世代へつなげることが何より大切です。

本大会が、その歩みをさらに力強く進める契機となることを心よりご期待申し上げるとともに、私も国政の場において尽力いたしますことをお誓い申し上げます。

貴会益々のご活躍ならびにご参集の皆様のご健勝を心より祈念致します。

令和7年10月26日

参議院議員、看護師
石田 昌宏



全国心臓病の子どもを守る会 第 63 回全国大会へのメッセージ

全国心臓病の子どもを守る会 第 63 回全国大会のご開催おめでとうござります。

いま政治が大きく動くもとで、国の社会保障削減の流れに対する不安が広がっています。

貴会のアンケートによれば、前回 2018 年実施時に比しても依然として生活でできるだけの所得補償がされていないことや、主治医が「問題なし」としているにもかかわらず親の付き添いが求められ、子どもの自立にマイナスになっていることなどがうきぼりになっています。

子どもたちにハンディを負わせないしくみと、20 歳を超えても十分な医療費助成が受けられる制度こそが必要であり、みなさんのご努力により“凍結”させた「高額療養費の患者負担増」の復活などもってのほかです。

日本共産党は、慢性疾病がある子どもが生涯を通じて適切な医療と自立のための支援が受けられるよう、小児から成人までの総合的な診療体制の整備を求めています。誰もが安心して医療が受けられ、暮らしていくよう、私も国会で全力を尽くす決意です。

本日のご盛会を祈念し、メッセージといたします。

2025年10月26日
日本共産党 参議院議員 白川容子

メッセージ



参議院議員（広島県選挙区）
森本 真治

一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会
**「第63回全国大会」のご開催にあたり
謹んでご挨拶を申しあげます。**

皆さまにおかれましては、心臓病を患う子どもたち、そしてそのご家族の命と暮らしを守る為、長年にわたる真摯なご活動に心から敬意を表します。

時代の変遷と患者さんやそのご家族の高齢化に伴う介護問題や公的所得保障制度の拡充など課題は山積しております。

私も、患者の皆さまが安心して療養に専念でき、ご家族と共により安心して充実した生活を送ることができるよう、今後とも皆さまからのご意見、ご要望を賜りながら国政の場で取り組んでまいる所存です。

今後共、ご指導ご協力を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。
むすびに、全国心臓病の子どもを守る会の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、私からの挨拶といたします。